

Ⅲ－② 四国財務局の方々による国の財政に関する学習(中3)

毎年、12月中旬に、中学3年生の社会科公民の授業内容と関連させ、財務省との連携による国の財政について学ぶ「財政教育プログラム」を実施している。

3年生全員を対象に、12月17日(火)の2、3時間目に体育館で実施した。四国財務局8名の方々から国の財政のしくみについて学ぶとともに、4人の小グループに分かれて、自分たちが財務大臣になったつもりで未来の国の予算案をタブレットを使いながら考えていった。生徒は、未来の国の予算案を具体的なテーマや根拠をもって意欲的に創り上げていった。その後の予算案発表会では、意見の異なる者からの質問やそれに対する応答が活発に展開され、未来の国家財政に対する関心の高まりを強く感じた。今回は、初めて四国財務局長も授業を参観され、生徒たちの熱心に予算を考えたり、意欲的に討議し合う様子に感心されていた。



四国財務局の方から国の財政について学ぶ



四国財務局長も授業を参観



未来の国の予算案をタブレットを使いながらグループで創り上げる



考えた予算案を全体場で発表する



指導をいただいた四国財務局の方々

Ⅲ－② 四国財務局の方々による国の財政に関する学習(小1・2)

本年度より、小学1年生と6年生を対象に財務省との連携による国の財政について学ぶ「財教育プロジェクト」を実施することとなった。令和2年2月18日には1・2年生の全児童を対象に実施した。本年度は初年度なので、2年生も対象に実施することとした。

低学年の授業では、お金のサンプルに触ったり、欲しいものが買えるかどうかを話し合ったりする中で、お金の役割に気付き、お金や買い物への興味をふくらませている様子だった。また、「お年玉(お金)がどこからきて、どこにいくのか」や「お金がある施設と知らない施設の違い」を知って、公共(お金の要らない施設やサービス)にも興味をもっていったようすだった。

今回の活動で、低学年の子供たちは、普段何気なく使っているお金の大切さに気づき、日常生活に生かそうという姿を見ることができた。



四国財務局の方からお金の価値について学ぶ



お金の模型を並べ替える



ドラえものの道具の購入計画を立てる



話し合いながら、お金の使い方を考える



考えたお金の使い方を全体の場で発表する



指導をいただいた四国財務局の方々

Ⅲ－② 四国財務局の方々による国の財政に関する学習(小6)

令和2年2月20日に行われた6年生の授業では、税金と自分たちの暮らしや地域の公共施設との関わりを理解し、よりよい地域づくりのためには他人事ではない「日本の財政」の現状と課題を認識していった。また、日本の財務大臣になって、よりよい国にするために国家予算を見直すことを目的としたグループワークを行い、多面的に考える難しさや、グループ内での多様な意見を集約するための建設的な話し合いが必要なことを気付いていった。また、授業後にはリフレクションを行い財務局の方たちと教員で話し合いを行い、今後の授業の展開について方向性やアイデアを交流した。

附属坂出学園では、この取り組みを続けていくことで、小学1年生・小学6年生・中学3年生と段階をへて、適正な金銭感覚を身に付け国の財政について思いをはせることができる人材を育てていきたい。



四国財務局の方から財政の仕組みについて学ぶ



一億円のサンプルで大喜び



タブレットを使い、予算案を考える



考えた予算案を全体場で発表する



参会者でリフレクションを行う



指導をいただいた四国財務局の方々

効果(終了後のアンケート・リフレクションより)

プログラム実施後に、児童・生徒からアンケートをとったり、四国財務局の方と教職員でプログラムについてフレクションを行ったりして、効果をはかったり、今後の展開について話し合ったりした。児童・生徒の中には、「財政のあり方について深く考えることができた」「これからお金の使い方を考えていきたい」などの肯定的な意見が多く見られた。

また、プログラム後のリフレクションでは、教材の使い方や子供への伝え方など細かなところまで打ち合わせを行い、来年度の実施に向けて有意義な話し合いができた。

児童・生徒の声

<「お金の力」小学校低学年より>

- ・お金は大切にしないといけないと感じた。ドラえものの道具を未来デパートで買うのが面白かった。
- ・お金の使い方をみんなで決めていくのが難しかった。
- ・お金の使い方を考えたけど、お金の増やし方も考えてみたい。
- ・10円でも100枚あれば、1000円の紙幣と同じになることが分かった。
- ・お金には、貨幣と紙幣があって、紙幣の方が大きいことが分かった。
- ・道具を買うことが楽しかった。(この活動を通して)お金の使い方がよく分かった。
- ・財務省はみんなが集めたお金で何を買うか決めるお仕事をすることが分かった。
- ・1円もたくさん集まると高い価値になるから、大切にしないといけないと思った。

<「財政教育プログラム」小学校高学年・中学3年より>

- ・消費税は増やさず、法人税をあげるなど国の状態に応じた税金を重視する必要がある。
- ・借金をしすぎない程度に一人一人平等にお金を使うことができる国になったらいいと思う。
- ・国の借金は少しずつ減らしていけないといけない。その為には少子高齢化問題も考えないといけない。
- ・若者にも高齢者にも優しいバランスのとれた予算を作るとはとても難しいと分かった。
- ・財務省の人達は見えないところで働いていて、国民の使うお金のことを考えていることが分かった。
- ・たくさんの人たちの選挙を基に、予算が決まるので一人一人の意思表示は大切だと思った。
- ・18歳になると選挙権が得られるので、他人事だと思わず自分事だと思いつきしっかり考えるべきだと思う。

プログラムリフレクションの様子より

<財務局の方々より>

- ・プログラムの実施を行い、その後リフレクションを行うことでどんどんプログラムの改善していきたい。
- ・小学校の低学年のプログラムは、まだ、実施回数も少なく他県でも事例は少ない。その為、実施するたび、リフレクションを行いよりよいものにしていきたい。
- ・子供の反応に勢いがあり、教えたことがよく伝わっていた。
- ・小学校低学年から中学生を指導すると、その成長の様子がよく分かり参考になった。
- ・国の財政について考える際、子供たちが目指す国のビジョンを具体的に語っていて感心した。

<プログラムの検討より>

- ・ドラえものの道具を考える展開は、子供たちの興味をひくことができとても効果があった。
- ・プレゼンで財政の説明を端的に行っていて、国の予算の仕組みについてよく理解できていた。
- ・子供たちは財政について、どの歳入を増やしどの歳出を減らすかをよく考えていた。
- ・タブレットを操作する際、考えた予算案を実施すると実社会にどのような影響が出るのか中間評価が出るようになれば考えは深まるのではないかな。

小学校低学年「財政プログラム（金教プラス）」指導案

○ねらい お金のサンプルに触ったり、欲しいものが買えるかどうかを話し合ったりする中で、お金の役割に気づき、お金や買い物への興味をふくらませる。

●ねらい お年玉（お金）がどこからきて、どこにいくのか、また、お金がいる施設とからない施設のの違いを知って、公共（お金の要らない施設やサービス）にも興味をもってもらう。

活 動	支援の留意点	準備物（財務局）
0 講師の自己紹介 (3分)	○ 財務局のお仕事三択クイズをする ①みんなから預かったお金で日本のために買う物を決める仕事 ②一万円や百円などの、日本のお金をつくる仕事 ③外国旅行などのために、日本のお金と外国のお金を交換する仕事	・仕事の内容やお金の動きがイメージしやすいカット
1 お金に親しむ (3分)	○ お金のお見本を見たり触ったりして、お金の種類や価値についての気づきを引き出す ・数字の大きいお金ほど「強い(たくさん買える)」 ・日本では 10,000 円札が一番「強い」 ※両替は難しいのでパス（説明しない）	お金のサンプルカット ・10,000 円・5,000 円 ・1,000 円・500 円 ・100 円・50 円・10 円 ・5 円・1 円
2 欲しいものを買う 意見を出し合う (15分)	○ グループに分かれて、1 人 5000 円のお年玉で、何を買うか考える。買い物の楽しさや方法、目的などに気付けるようにする ・商品・・・マンガやソフト（自分だけのもの） おかしなどの食べ物（なくなるもの） ゲーム本体（高額商品） ・目的・・・自分のために みんなと遊ぶために 家族や友だちへのプレゼント等	商品のカット ・マンガ（1000 円）5 ・お菓子（500 円）10 ・ケーキ（500 円）10 ・人形（3000 円） ・洋服（3000 円） ・おもちゃ（4000 円） ・ゲームソフト（4000 円） ・ゲーム本体（10000 円）
3 今日のねらいを理解する (3分)	○ 「どの買い物も、商品を手に入れるためにお金が必要」という共通点に気付くことから、 <u>自分に必要な物を手に入れるためにも、お金はとても大切にしたい</u> という心情を引き出す ○ 自分のお金で自分だけの物を買うのと、高額な商品は、皆のお金で買う、もしくは今は買わずに貯めるなど、 <u>いろいろなお金の使い方があることにも気付いてもらう</u>	5000 円のサンプルカット は人数分用意
4 お金がどこから来たのか考える (5分)	● お年玉をくれたお父さんお母さんは（給料）、おじいちゃんおばあちゃんは（年金）から。 ● 会社は誰かのために働いて、お金を稼いできて、その中から（給料）が払われている ● お父さんたちが給料から（税金）を納めている会社も（税金）を納めている お父さんたちが納めた（税金）等から、おじいちゃんたちの（年金）が払われている	人物とお金のカット ・お父さん ・お母さん ・おじいちゃん ・おばあちゃん ・年金手帳 ・会社 ・国会（日本政府）

小学校高学年「財政プログラム」指導案

○ねらい 税金と自分たちの暮らしや地域の公共施設との関わりを理解し、よりよい地域づくりのためには他人事ではない「日本の財政」の現状と課題について、認識・共有する。

●ねらい 日本の財務大臣になって、よりよい国にするために国家予算を見直すことを目的としたグループワークの実践から、多面的に考える難しさや、グループ内での多様な意見を集約するために民主主義的過程が必要なことを気付いてもらう。

活 動	支援の留意点	準備物（財務局）
①講義（2分）	○ 講師・財務局の業務紹介	・プロジェクター ・ノートパソコン ※スクリーンは学校備付のものを使用 ・講義用資料
①-1 税金について（5分）	○ 身近にある消費税を皮切りに、所得税や法人税等、自分たちの暮らしの中にある税金と、その役割や納税の義務について考える	
①-2 地域の公共施設や公共サービスについて（5分）	○ 自分たちの暮らしの中に、地域の公共施設や公共サービスはどのようなものがあり、維持にどれくらいお金が必要か、クイズを交えて認識する	
①-3 予算 101 兆円について（3分）	○ 現金1億円のサンプルを見たり触ったりすることで、お金の重みに気付いてもらい、令和元年度の日本の予算総額 101 兆円という単位についてのボリューム感を共有する	・1億円サンプル
①-4 日本の財政の現状と課題について（5分）	○ 令和元年度の予算を基に、今の日本が抱える少子高齢化や財政再建の必要性等、現状と課題について説明を聞き、生徒同士で共有する	
①-5 グループワークの説明と準備（10分）	● 令和元年度の予算案を、財務大臣になって見直すグループワークの説明と事前準備を行う ・ 理想の日本の未来についてグループ別に考え、 <u>予算案のテーマを、グループ内で相談し決める</u>	・グループワークシート
（15分）	● 財務大臣になって、予算配分を、グループ毎のテーマに沿うように見直す ・ 講師が解説する各予算項目の内容を聞きながら、 <u>増減の方向を、グループ内の多数決で決める</u> ・・・できた班から休憩（1時間目終了）・・・	
②グループワーク説明（5分）	● グループワークの手引きの説明と、タブレットの使用方法について解説 ・ 増減を決定したすべての項目について、一旦50%の増減でタブレットに入力	・グループワークの手引き ・タブレット端末 ※グループワーク中の生徒間の討議も財務局の職員がサポートします
②-1 班別討議（15分）	● テーマに沿う様に、増減の幅について <u>グループ内で議論し、調整していく</u> ・ タブレットに入力した内容を、ワークシートに記入する	※タブレットの内容をPDF化する作業もサポーターが担当します